

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-610	22-039	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Association of alcohol consumption with the incidence of proteinuria and chronic kidney disease: a retrospective cohort study in Japan 蛋白尿および慢性腎臓病の発症と飲酒との関連：日本における後ろ向きコホート研究		
執筆者		
Tanaka A, Yamaguchi M, Ishimoto T, Katsuno T, Nobata H, Iwagaitsu S, Sugiyama H, Kinashi H, Banno S, Imaizumi T, Ando M, Kubo Y, Ito Y.		
掲載誌		
Nutr J. 2022 May 14;21(1):31. doi: 10.1186/s12937-022-00785-x.		
キーワード	PMID	
慢性腎臓病、蛋白尿、後ろ向きコホート研究、性差	35792799	
要 旨		
<p>目的：飲酒が腎機能に与える臨床的影響の性別による違いは、まだ解明されていない。本研究では、性別によって層別化したアルコール摂取量とタンパク尿および慢性腎臓病（CKD）の発症率との関連を評価することを目的とした。</p> <p>方法：後ろ向きコホート研究で、日本における2010年1月から2015年3月の定期健康診断で腎機能が正常[推定糸球体濾過量(eGFR)60 mL/min/1.73 m²以上]であった労働者26,788名（男性19,702名，女性7,086名）を対象とした。主要な曝露因子はアルコール摂取であり、主要アウトカムは、タンパク尿(定性試験(dipstick)によるタンパク尿≥ 1)の発生と、CKD(60mL/min/1.73m²未満、ベースラインから25%減少)発生とした。</p> <p>結果：観察期間中央値4年（四分位範囲：2-6）において、男性1,993人（10.1%）、女性462人（6.5%）が蛋白尿を発症し、男性667人（3.4%）、女性255人（3.6%）が低CKDを発症していた。Cox比例ハザードモデルを用いて臨床的関連因子を調整した結果、女性における40g/日以上のアルコール摂取は、蛋白尿（ハザード比、1.57；95%信頼区間:1.10-2.26）およびCKD（ハザード比、1.62；95%信頼区間:1.04-2.53）発生と関連することが示された。しかし、男性ではアルコール摂取と主要アウトカムとの間に有意な関連は認められなかった。</p> <p>結論：女性において、毎日の大量のアルコール摂取は、タンパク尿およびeGFR低下の発生率と有意に関連していた。女性では腎機能障害例で大量のアルコール摂取者が多い可能性がある。</p>		